HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

ひくまの : 浜松医科大学附属図書館報. No. 60

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学附属図書館 公開日: 2018-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松医科大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003389

浜松医科大学附属図書館報　No. 60　ISSN 0911-7822 *Hikumano*

ひくまの

Hamamatsu University School of Medicine
Library Bulletin　Mar. 2011
http:// www.hama-med.ac.jp/toshokan.html

目　次

・巻頭言　附属図書館長（心理学）　中原大一郎 …… 1
・黒澤 明 の「赤ひげ」　化学・准教授　松島　芳隆 …… 3
・ワークショップ
　「DRF技術ワークショップ in 旭川（DRFtech-Asahikawa）」に参加しました …… 5
・JAMA電子ジャーナルの利用方法　目録情報係 …… 7
・附属図書館で職業実習 …… 9
・トピックス
　静岡県医療機関図書室連絡会研修会を静岡にて開催 …… 9
　今日の診療Web版トライアル …… 9
　視聴覚室の冷暖房 …… 10
　4月からIC対応になります …… 10
・平成23年度開館カレンダー …… 10

兼任館長の事始め

附属図書館長（心理学）　**中　原　大一郎**

身動きできない長い時間をもてあます飛行機の中での救いは本を読むこと。11月にアメリカ西海岸のサンジエゴに行く機会があった。北米神経科学会議参加のためである。日本からは比較的近いが、それでも目的地までの往復に20時間余かかる。バックの中に持ち込んだ本は、多田富雄著の「免疫の意味論」など数冊。多田さんの本を携えたのには理由がある。

6年前くらい前のことになるが、遺伝子改変マウスの行動解析を行っている宮川剛先生（藤田保健衛生大学教授）が本学で講演されたことがある。その折に気になることを話された。かいつまむと、「私のところに送られてくる沢山の遺伝子改変マウスを様々な行動テストを組み合わせてスクリーニングすると、

そのうちの90％が何らかの行動異常を示す」と。遺伝子改変動物のほとんどは何らかの身体機能との関わりを調べる目的で作られるが、どうやらその多くは作成者の気づかない脳機能にも影響を及ぼしているらしい。とても興味をそそる話だ。早速、私は「遺伝子改変動物は脳機能障害モデルの宝庫かも知れない？」とワクワクしながら、身近な先生方に声をかけさせてもらった。研究を終えた遺伝子改変マウスがどこかに余っていないか、と。

私の知りたいことの一つは報酬学習に関わる脳内機構であるが、譲り受けた遺伝子改変マウスを使って、とりあえず報酬系を支えるドーパミン機能の異常があるか否かを調べることから始めた。用いた方法は、ホームケージに取り付けたセンサーを使って、マウスの活動量を日がな一日モニターするだけ。いたって簡単なものだ。ところが、遺伝子改変マウスの一つに明らかな異常がすぐに見つかった。野生型マウスに比べると夜間の活動量が3倍にも増加したのである。宮川先生の言う通りであった。

活動量の増減にはドーパミンの働きが関わることが知られている。そこで、次にドーパミン作動薬に対する反応性を調べたが、その異常ぶりも期待通りであった。このマウスは主要組織適合遺伝子複合体（MHC）クラスⅠ分子の一部を欠損していた。譲り受けた感染症学講座（小出教授）に尋ねると、MHCクラスⅠは抗原提示を行うことで細菌やウイルスなどの感染病原体を排除する免疫にとって重要な働きをする分子であること、そしてMHCクラスⅠはほぼすべての体細胞に発現するが、脳（神経細胞とグリア細胞）には発現しないと考えられていることが分かった。そんなことすら知らなかった私はただ驚くばかりだった。しかし、よく調べてみると、最近になってMHCクラスⅠは健常な脳細胞にも発現することが分かり、脳における新たな役割が注目されていた。

例えば、いくつかの論文にこんな発見が記載されている。視覚路の発達時には、網膜から外側膝状核に対する無作為の神経投射が起こるが、その無作為投射による過剰なシナプスは刈り取られ、発達後に必要なものだけが残る。すなわち、眼球優位性コラムを厳密に形成するように微調整される。しかし、「MHCクラスⅠシグナリングに必要な遺伝子を欠くマウスでは刈り取りが起こらず、異常に拡がるシナプス形成が認められる」と。また、「ノックアウトマウスでは、小脳のプルキンエ細胞に対する過剰な求心性投射が起こり、長期抑制（LTD）が容易に誘発され、さらに運動学習が亢進し、その記憶は長期間にわたって保持される」と。どうやら、MHCクラスⅠ遺伝子を欠くマウスでは、発達期だけでなく、大人になってから新しく形成されるシナプス結合も消去されずに残り、それが異常な記憶に結びつくらしい。

そんなひょんなことがひょんなことに繋がって、私たちは今嗜癖薬物による報酬記憶の亢進とMHCクラスⅠ分子の関係を調べている。嗜癖薬物を止めた後でも繰り返して求める依存のメカニズムの解明に一歩近づくかもしれないと期待を込めて。私たちと考えを同じにする研究の流れは世界でも始まっており、今回の学会のサテライトの一つにも「脳機能と神経免疫分子」に関するシンポジウムが含まれていた。そこで、学会に行く前の飛行機の中で免疫のシステムとはどういうものかを改めて勉強しておきたかった。10数年前に読んだ（がすっかり忘れている）「免疫の意味論」を携えた理由はそういうことだった。

この本は免疫学の基礎を知りたい素人にはとても良い書物だがそれだけでなく優れた科学哲学書でもあると思う。我が国には優秀な科学者が沢山いるが、哲学を語れる科学者はそう多くはない。多田富雄はその少ない科学哲学者のお一人だと日頃から尊敬している。しかし、多田さんはこの4月にとうとう亡くなられてしまった。重い脳梗塞に倒られた後も不屈の努力によって8年余を生き抜かれてきたのだが…。

本学では数年前からチュートリアル教育を始めている。兼任館長(私)も担当する教養教育では、それに備えるために、プレチュートリアル教育と称して少人数ゼミを実施している。自学自習の態度を身につけることや様々なものの見方や考え方を学ぶことなどがその目的だ。そこで、例年のことだが、新学期が始まる前に独学できる良い教科書と科学哲学を学ぶ良い副読書選びで頭を悩ませることになる。そうして、詰まるところ、翻訳されたテキストと科学哲学書を学生に勧めることになる。日本人の書いた教科書は断片的で体系的知識が得られないからだ（私の学問分野に限られるかも知れないが)。

アメリカの教科書は何と言っても装丁が美しい。また分厚いが物語ふうに書かれており読みやすい。そして丹念に説明を追っていけばちゃんと理解できる。体系的な知識が得られるので読み終えた後も達成感があり心地よい。教科書の善し悪しは、一義的には、学問水準の違いによるが、学生数の多寡も関係するらしい。何しろ世界には英語を話す学生が圧倒的に多い。売れて儲かると莫大な利益につながるので、アメリカでは、力のこもった良い教科書が作られることになるようだ。科学哲学書の彼我差にも同じ事情があろうか。日本語が国際共通語にならない限り優れた科学書は日本から滅多に生まれないのかも知れない。

それはともかくとして、図書館に足を運ぶ勉学熱心な学生さんには心に残る教科書や科学書に触れてもらいたいと思う。無から有は生まれない。大人には当たり前のことだが、若いときにはなかなかそのことに気づかない。頭の中でない知恵を絞るばかりで、後になってもっと勉強しておけば良かったと悔いることになる。自分の目の前にそれまで見えなかった未解決問題が山ほどあることに気づかされるのは体系的な知識を得た後だ。そして、ちっぽけな自分でもやれそうな問題がいくつか見つかり目の前が開かれてくる。あれやこれやの試行錯誤と失敗を繰り返しながら、またその苦しみに耐えながら、自分の一生を賭けるに値する問題が見つかるのは、学生時代を過ぎた後の30歳前後になるだろうか。それまではインキュベーションの時だ。学生さんには、図書館の書架に備えられた体系的教科書と素晴らしい哲学書に出会う機会を与えたい。そして、自らの心を勇み立たせるやりがいのある大きな課題を見つけて欲しいと願っている。本学図書館の書架に、まずは、それぞれの学問分野の代表的教科書を揃えることから始めたい。

黒澤 明 の「赤ひげ」

化学・准教授　**松　島　芳　隆**

今だったらGoogleで検索したりAmazonレビューなどを参考にしたりして、観るべき作品を吟味するところだが、私がレンタルビデオ屋で最初に選んだのは、輝かしい黒澤明の歴史の中でも最も不遇な時代に作られた映画であった。その世界に入りきれなかったせいか、しばらく他の作品を観る機会を逃していたが、数年後「七人の侍」を観た後は、その凄い体験を人に伝えるようになり、池袋の新文芸坐オープン記念の上映会にも足を運んだ。黒澤映画と聞くと難解な芸術作品として敬遠される向きもあると思うが、特に初期の作品は非常に娯楽性が高く、圧倒的に面白い。まずは、なんといっても「七人の侍」(1954年)。他に時代劇では「用心棒」(1961年）と「椿三十郎」(1962年)、現代劇では「天国と地獄」(1963年）と「悪い奴ほどよく眠る」(1960年）がおすすめだ。

傑作ぞろいの黒澤作品群だが、医学生・看護学生に特におすすめする作品は、やはり「赤ひげ」（1965年）だ。この度図書館にDVDを揃えて頂いたので紹介する。この映画は“Doctors in the movies”という論文（Archives of Disease in Childhood, 2004, 89, 1084-88.）[注)] でもベスト1として紹介されているが、黒澤明の映画ということもあり海外でもよく知られた作品である。「パッチ・アダムス」という映画のモデルのパッチ・アダムス本人が日本の医大（どこだろう？）の講演会で、自分の映画より「赤ひげ」を観なさいと言ったとか、デーブ・スペクターも赤ひげを必ず薦めるのだとか（この2つはWikipediaの情報）。

映画は保本登（加山雄三）という若い医者が長崎での国内留学を終え、不本意な職場である小石川養生所（現在の小石川植物園の場所）に配属されるところから始まる。所長である新出去定（三船敏郎）のやり方に反発する彼が、医者として人間としてどうなっていくのか。医学生なら自分と重ねて物語を追うことができるわけで、実にうらやましい。

加山雄三が「椿三十郎」のときより格段にいい演技。話の上で事実上の主役というだけでなく、今回は三船敏郎と一緒にいてもあまり負けていない。この作品で「酔いどれ天使」以来続いた三船－黒澤の蜜月時代が終わりを告げてしまうことと無関係ではないかも知れない。また、本作品は黒澤最後の白黒作品でもある。長次（長坊）役の頭師佳孝と、おとよを演じた二木てるみの2人は大人顔負け、子役の範疇を超えた演技力、存在感。医師でない私にとっては、この2人のやり取りが一番こころを動かされた場面だった。

「赤ひげ」を観ると手塚治虫の「ブラックジャック」を思い浮かべるかも知れない。ヤクザに暴力を振うところ、人道的なことをするのをひけらかさず、むしろ隠す。金持ちからは治療費をごっそり取るところ。結構似ているではないか。手塚治虫は大の映画好きなので、きっと公開時に「赤ひげ」も観て影響を受けたのであろう（当時の関係者のブログによると、2人には交流があり幻の合作の話もあったらしい）。医者が主人公の作品には、「赤ひげ」以前に「酔いどれ天使」（1948年）と「静かなる決闘」（1949年）の2作があるが、前者の真田医師（志村喬）は、「赤ひげ」とはまた違って、より親近感を感じるキャラクターの医者だ。こちらも鑑賞されたい。

ところで、「赤ひげ」の中に出てきた言葉で印象に残ったのが、「お仕着せ」。物語としては、これを保本が着るのか・・・が気になるところ。今では「上から押し付けられたもの、型どおりのもの」と言う意味に転じて使われていて、「押し着せ」という印象だが、もとは、江戸の時代に主人から季節に応じて与えられる衣服（仕事着）のことを指した言葉。上からもらうものだからか、「仕着せ（四季施）」に「お」をつけたものらしい。聞いたことはある言葉だがよく知らなかった。

追記：本文に記載しなかったが、この映画には登場人物の回想シーンとして江戸を襲った大地震のシーンが出てくる。原稿を書き終わってから東北地方を中心とした大震災が起こった。震災で亡くなられた方へ哀悼の意を表するとともに、日本の復興に僅かばかりでも貢献できることを願う。

注）http://adc.bmj.com/content/89/12/1084.extract から 本文（Full text, pdf）参照可能

ワークショップ

「DRF技術ワークショップin旭川（DRFtech-Asahikawa）」に参加しました！

平成22年度科学研究費補助金（奨励研究）研究課題「機関リポジトリのデモサイトによる利用教育の検証」についての情報収集のため、2月4日、旭川医科大学で開催されたワークショップ「DRF技術ワークショップ in 旭川（DRFtech-Asahikawa）」に参加しました。当日は北海道の大学図書館員を中心に、50名を超える参加者がありました。

「DRF技術ワークショップin旭川（DRFtech-Asahikawa）」プログラム

開会挨拶：藤尾均旭川医科大学図書館長

基調講演：「日本の学術情報流通～機関リポジトリとオープンアクセス」
（三根慎二氏・三重大学人文学部講師）

講　　演：「機関リポジトリに求めるもの」
（高草木薫氏・旭川医科大学脳機能医工学研究センター教授）

事例報告：「旭川医科大学の機関リポジトリAMCoRについて」
（糸林真優子氏・旭川医科大学）

事例報告：「コンテンツ収集に役立つ活動」

1.「研究室訪問：いいとも作戦」（城恭子氏・北海道大学）

2.「研究室訪問：専属司書制度」（長谷川奈々氏・小樽商科大学）

3.「出版者許諾情報の共有（SCPJ）」（横井慶子氏・東京工業大学）

「自分でできる登録実習～UsrCom サイト紹介」
（武内八重子氏・千葉大学、藤本愛子氏・旭川医科大学）

「コンテンツ登録時の工夫～テクニック講座」
（野中雄司氏・北海道大学、前田信治氏・大阪大学）

ワークショップは藤尾附属図書館長の開会挨拶に始まり、三根氏による講演は、機関リポジトリとオープンアクセスの歴史的概観と現状の分かりやすい解説で、最新の話題としてNatureによるオープンアクセス誌に関する動向も紹介されました。

旭川医科大学の機関リポジトリ（AMCoR）で8000件近くダウンロードされた論文の執筆者である高草木氏の講演は、「この論文が非常に多くダウンロードされる理由は？」について、自分の研究領域の繋がりから複数の読者層によるもの、という自己分析を分かりやすく説明され、また機関リポジトリ使用者としての立場、論文提供者としての立場から、機関リポジトリに求められる役割について話されました。この2つの講演には、会場である旭川医科大学の教員も多数聴講されていたこともあって、活発な意見交換が行われ、オープンアクセスや機関リポジトリへの高い関心が伺われました。

事例報告は各大学の機関リポジトリへの取り組みが中心でしたが、機関リポジトリのプロモートやコンテンツ収集のための研究室訪問についての独自の工夫や学協会のコンテンツ許諾に関する情報を提供するSCPJ（http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/）の活用法を聞けたことは、機関リポジトリ業務を所管する者としては非常に有益でした。

「自分でできる登録実習～UsrCom サイト紹介」は、5種類のソフトウエアを試用可能な機関リポジトリのデモサイト「UsrCom」（http://usrcom.ll.chiba-u.jp/）の紹介に加え、導入機関の多いDSpaceと旭川医科大学で導入されているXooNIpsでの活用法について説明がありました。今回の主目的は「UsrCom」の活用法について聴取することでしたが、研修会等での活用事例の紹介は、様々なソフトウエアを手軽に体験できる機関リポジトリのデモサイトの効用・必要性を実感するものでした。

「コンテンツ登録時の工夫～テクニック講座」は、コンテンツ提供者の投稿意欲を高めるための手段の一つとして、サーチエンジン等を利用したコンテンツの可視性を広げるテクニックについて分りやすい説明と実践報告でした。続いて行われた質疑応答では、参加者から出された担当者として疑問・悩みに、講師陣が熱く丁寧に回答され、貴重な情報交換の場となりました。

機関リポジトリの担当者も早や三代目の時代だそうですが、初代として取り組んだ筆者は、若手・中堅の図書館員の熱意を頼もしく思い、また講師や旭川医科大学スタッフの様々な工夫で楽しく和やかな雰囲気に身を包まれた1日でした。

（学術情報課・加 藤 晃 一）

＊当日の資料：http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php？DRFtech-Asahikawa

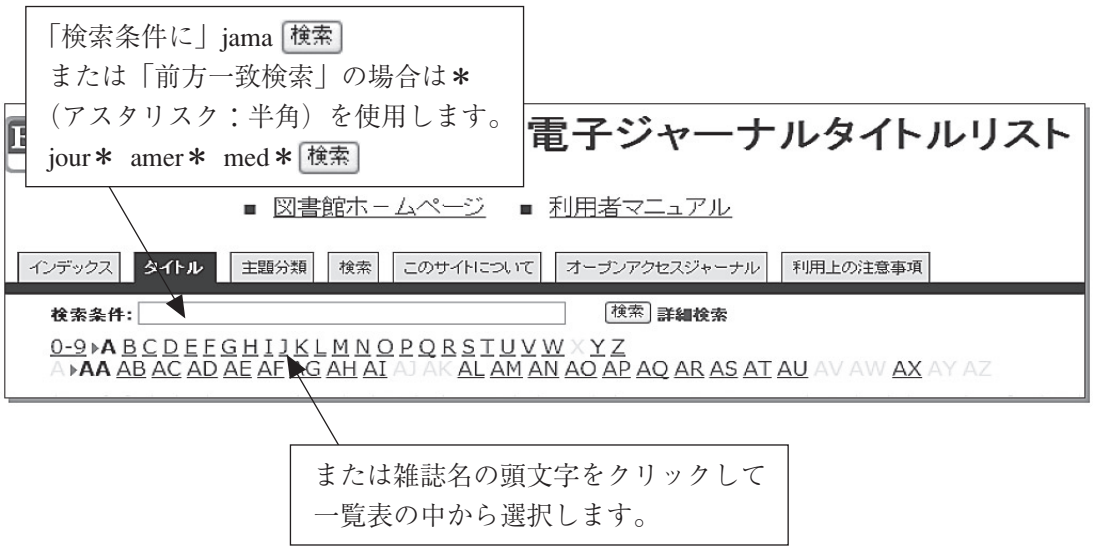
三根氏の基調講演

参加者を歓迎してくれたDRFパンダさん

JAMA : the journal of the American Medical Association 電子ジャーナルの利用方法

米国医師会雑誌と呼ばれ、1883年に創刊されて以来、医師及び医療関係者に最新の治療、医療情報を提供し続けているアメリカで最も権威のある総合医学雑誌のひとつです。

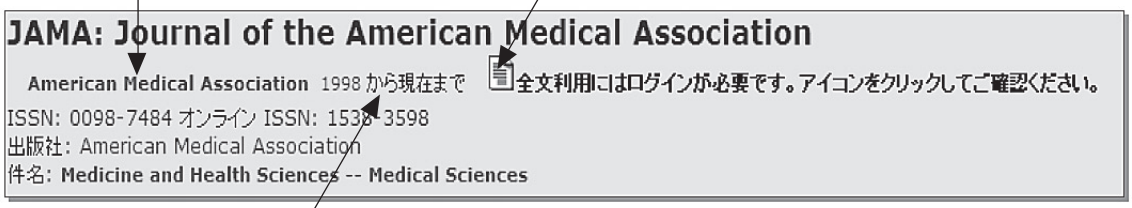
図書館トップページの電子ジャーナルからアクセスすることができます。
図書館で購読している電子ジャーナルについては、学内LANに接続されたパソコンからであれば、ほとんどのタイトルはID・パスワードを入力することなくそのまま利用することができます。
この雑誌については、全文表示のためにユーザーネームとパスワードが必要になります。



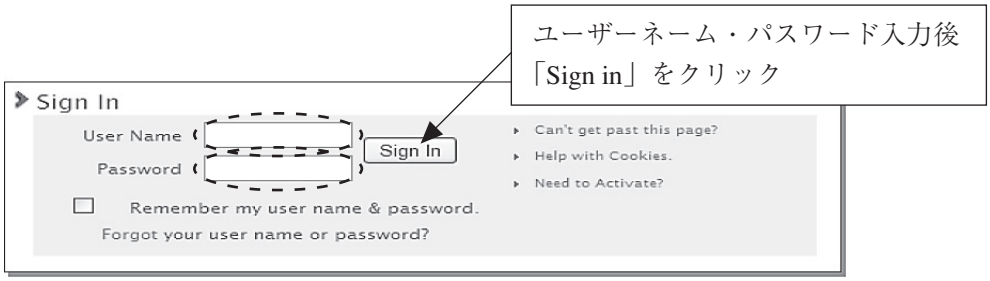
または雑誌名の頭文字をクリックして
一覧表の中から選択します。

ここをクリックすると
JAMAの電子ジャーナル
へ移動します。

このアイコンをクリックすると
ユーザーネーム・パスワードが記載された
ページが表示されます。



全文利用可能である期間が表示されます。

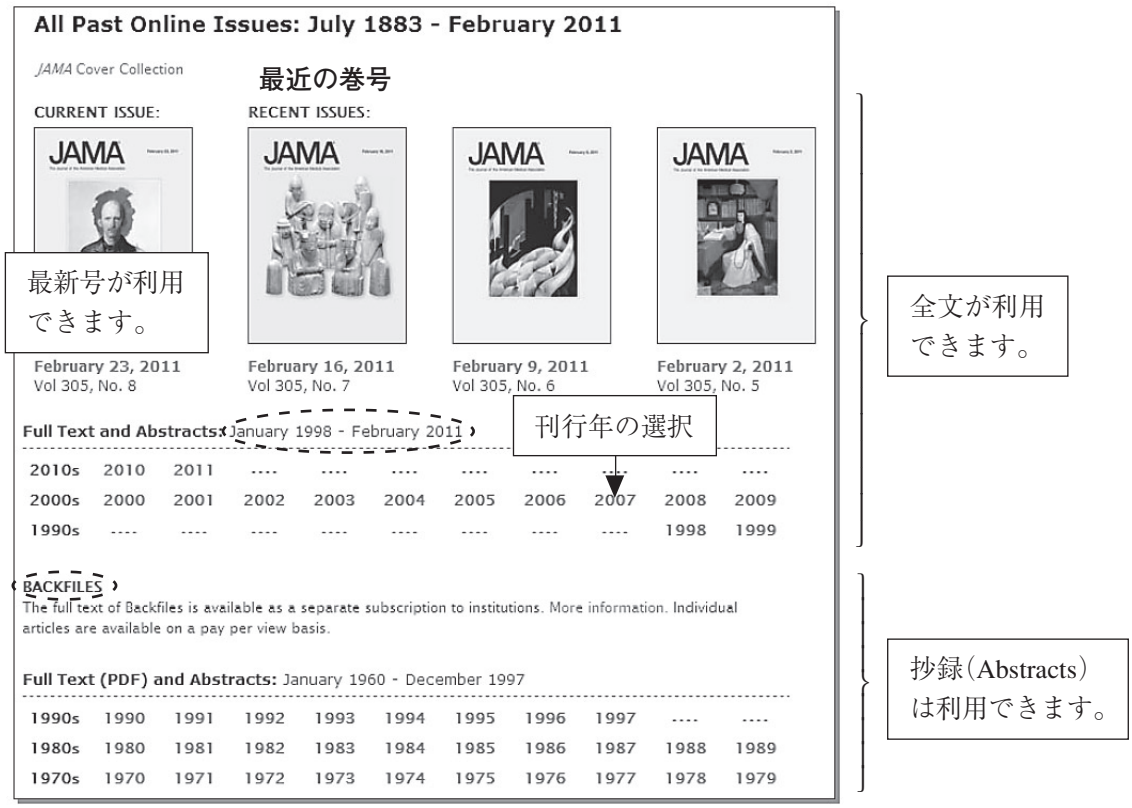


1998年から最新号まで利用することができます。

現在、1997年以前の巻号(BACKFILES)については、本学では電子ジャーナルを購入していないため、全文を電子で利用することはできません。冊子体については、1950年から所蔵しています。

ユーザーネーム・パスワードは学内のみ表示されます。

利用終了時には、「Sign Out」してください。



画面右上に、常時「SEARCH」の検索窓が表示されています。キーワード検索の場合、論文のタイトルに加えて、抄録や全文に含まれる単語も検索対象になります。

「Advanced Search」では論文の種類の絞込み、タイトルに含まれる語のみを対象にするなど、より詳細な条件で検索ができます。

（目録情報係）

附属図書館で職業実習！ー静岡県立浜松特別支援学校に協力

配架調整

去る1月26日から2月2日にかけて、静岡県立浜松特別支援学校の要請を受け、高等部一年生の鈴木由希子さんの職場実習を実施しました（浜松特別支援学校からの実習受入は昨年度に続き2度目）。実習は1日6時間で5日間に渡って行われ、開館準備（清掃、当日の新聞の配架・整理）、図書や雑誌の装備補助、配架調整といった業務に取り組んでもらいました。「本が好き」「図書館が好き」という鈴木さんは、職員の指導を受け、一つ一つの仕事に丁寧に取り組み、その集中力は職員一同が驚くほどのものでした。初日は緊張していたものの、中盤からは緊張もほぐれ、戸惑うことなく数々の業務をこなしていました。

図書の装備

実習最終日に見学されたお母様からは、鈴木さんが家で実習の報告を毎日楽しくされていたこと、終わることを惜しんでいたことなどを伺い、短い期間ではありましたが、鈴木さんの学生生活にプラスとなる機会を提供できたことを一同喜んでいるところです。

（学術情報課）

トピックス

静岡県医療機関図書室連絡会研修会を静岡にて開催

平成22年11月15日静岡県立大学短期大学部教育棟にて、静岡県医療機関図書室連絡会研修会が開催されました。

当日は、こころのケアの必要な患者さんや入院中の子どもたちへ夜間絵本の読み聞かせ等をボランティアで行なっているヴォイスセラピー実践研究家の上藤美紀代氏の講演がありました。上藤氏の活動を通して、癒しやこころを元気にする「声」も持つ力の効果を学びました。また静岡県立総合病院の脳卒中リハビリテーション認定看護師中原由紀子氏から仕事のうえで看護師がどのように文献を求めているのか、ご自身の体験をもとに講義があり、病院図書館（室）の役割を再認識しました。さらに聖隷三方原病院図書室おいては、資料へのナビゲーション機能向上のためのリンクリゾルバ導入した事例報告がありました。

トピックス

「今日の診療Web版」トライアルを実施、4月から正式導入

10月12日～11月11日まで「今日の診療Web版」の無料トライアルを実施しました。「今日の診療Web版」は「今日の治療指針」をはじめとした医学書院の書籍13冊を収載した診療データベースです。最新の研究成果に基づく最も効果的な治療法の情報が検索可能で、解説本文のほか約1万2千点の図表や写真にアクセスできます。また薬品名から「治療薬マニュアル」へもリンクされています。トライアルの結果が好評だったため4月から改めて正式に導入されることになりましたので、ご案内します。詳しい検索方法は改めてご紹介します。

トピックス　視聴覚室の冷暖房が時間外も使えるようになりました

図書館の空調は時間制限があり、時間外ではご不便をかけていますが、今回、視聴覚室において新たにエアコンを設置し、時間外でも冷暖房が入るようになりました。快適な環境で学習できるようになりましたので、どうぞご利用ください。

トピックス　4月からIC対応になります

図書館の入館ゲートと貸出機は現在バーコードで処理を行なっていますが、4月から職員証および学生証の更新によるIC導入に伴い、機器を変更しICでも対応できるようになります。

ただし特別利用（24時間）は、磁気カードからICのみの対応になりますので、出入の際はICカードが必要です。ご注意ください。

平成23年度浜松医科大学附属図書館開館予定日

□ は閉館日　土・日曜日 10：00−17：00

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

浜松医科大学附属図書館報「ひくまの」No.60　　2011年3月31日発行
編集：図書館報編集委員会
発行：浜松医科大学附属図書館　〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目20番1号　Tel. 053−435−2171　Fax. 053−435−5140